

## 令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・「たくましく生きる力」を育てるため、小学部から高等部までの系統性のある教育活動の実践と教育課程の確立を図る。	①実態把握を的確に行い、自立活動の視点で個別教育計画を作成し、系統性のある児童・生徒が主体的に学ぶ授業づくりを推進する。 ②授業反省と振り返りの仕組みを継続して良い授業実践につなげ、様々な手立てで発信する。	①小中高の系統性を意識して個別教育計画を作成し、教育課程を組む。校内研究と関連させて主体的な活動を引き出す授業実践となるように単元計画を立案する。 ②授業改善の仕組みを継続し、良い授業実践を見学や学部交流等を活用して学部や学校全体で共有する。様々な手立てで発信する。	①小中高の系統性を踏まえた個別教育計画を作成したか。校内研究を活用して主体的な活動を引き出す授業を実践できたか。 ②授業改善の仕組みを継続できたか。良い授業実践を学部や全校で共有したか。様々な手立てで発信できたか。
2	児童・生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりのコミュニケーション力の向上と自発的な行動の育成をめざし、家庭や地域とも連携した指導・支援の充実を図る。	①将来を見据え、個々に応じたコミュニケーションの手立てや環境を整え、自発的な行動を育成する。 ②湘南支援ブランドや意思伝達の取組について家庭や地域での活用を促進する。	①個々の力に合ったコミュニケーション支援を授業や生活の場で実践し、意思伝達の成立を通して自ら活動に取り組むよう工夫する。 ②保護者と地域の事業所等へ湘南支援ブランドと意思伝達の個々の工夫等を紹介し理解共有する。事業所対象の学校見学を実施する。	①児童・生徒のコミュニケーション力に合った手立てや環境を整えたか。自発性を引き出す指導支援ができたか。 ②湘南支援ブランドと意思伝達の個々の工夫等について、保護者と地域の事業所等の理解が進んだか。
3	進路指導・支援	・自立と社会参加をめざし、児童・生徒一人ひとりのニーズと適性に応じた進路指導・支援を行う。	①前年度の取組を土台に、個々のニーズと適性を踏まえキャリア教育の視点で進路支援を系統的に進める。 ②全学部の保護者に、次のステージの生活や進路について具体的にイメージできるよう情報提供する。	①小学部(低学年・高学年)→中学部→高等部(各学年)と個々のニーズと適性を踏まえたキャリア教育を系統立てて計画実施する。 ②学部、学年の次のステージの生活や進路情報について情報発信を行う。「企業と語ろう」を開催し卒業後に向けて情報提供する。	①個々のニーズと適性を踏まえたキャリア教育の視点で進路支援を系統的に進め、児童生徒の力を伸ばせたか。 ②全学部の保護者や児童・生徒のニーズに沿った情報を具体的に提供することができたか。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、地域との連携、協働による活動を展開し、障がいのある子どもの理解を推進する。	①教科等のねらいをより明確にし、地域と連携協働した学習活動計画を立ててともに取り組む。 ②見通しを持って意欲的に活動できるように居住地交流や学校間交流を実施し、理解を促進する。	①作品展示やインクルーシブハブ湘南等では目的や内容を精査して地域とともに活動に取り組む。特別支援教育等について発信する。 ②「交流及び共同学習ガイド」に沿って交流校とねらいを確認し計画、実践を進める。事前打ち合わせを丁寧に行い、個々の実態に応じた目的を共有して実施する。	①教科等のねらいをより明確にした上で、地域資源を活用した学習活動を地域と連携協働してともに取り組んだか。 ②共同学習の視点を持ち、居住地交流や学校間交流への意欲的な参加を支援し、理解促進できたか。積極的にボランティアを募集活用できたか。
5	学校管理 学校運営	・安心・安全な学校づくりの推進のため、危機管理体制の確立を図る。 ・人権に配慮した指導支援に努め、組織的に不祥事の未然防止を図る。	①危機管理の研修や講習、訓練に自分ごととして取り組んで想定外を減らし、教職員が適切に行動する。 ②高い人権尊重の意識を持ち、児童・生徒が安全に安心して学べる人的物的環境作りを推進する。働き方改革を進めて現状を改善し、不祥事を未然防止する。	①危機管理に関する各種マニュアルを理解する。研修や訓練へ積極的に参加し、起きた場合を想定し準備する。名札着用を徹底する。 ②さん付け呼称の徹底と人権に配慮した児童・生徒への丁寧な言葉遣いを「いつでも・どこでも・誰とでも」を心がけ、定着を図る。業務遂行上の課題点を洗い出し、効率化に向けて工夫と共有する。	①各種マニュアルを理解できたか。研修や訓練を通して自分ごととして準備できたか。名札の着用を徹底できたか。 ②さん付け呼称を常に心がけて人権に配慮した肯定的な言葉遣い、丁寧な言葉遣いが全教職員に定着したか。業務上の課題点を洗い出し、効率化に向けて工夫共有できたか。